

Japanese Society of Tropical Medicine Students' Branch

Hepatitis

肝炎勉強会運営報告書

2021年5月-6月



目次

勉強会概要	3
はじめに	3
到達目標	3
講演者一覧	3
日程一覧	4
勉強会報告	5
「基礎研究」グループサマリー	5
「臨床」グループサマリー	6
「行政」グループサマリー	7
謝辞	7

肝炎担当班 編

勉強会運営責任者

臨床担当

城戸初音 熊本大学医学部医学科

基礎研究担当

金理志 東邦大学医学部医学科

竹田早希 東京女子医科大学医学部医学科

磯邊綾菜 京都府立医科大学医学部医学科

福田佳那子 山口大学医学部医学科

臨床担当

竹田早希 東京女子医科大学医学部医学科

磯邊綾菜 京都府立医科大学医学部医学科

城戸初音 熊本大学医学部医学科

行政担当

榊華野子 奈良県立医科大学医学部医学科

植田まさみ 奈良県立医科大学医学部医学科

塚原万葵 東京女子医科大学医学部医学科

本報告書における発表内容は、その責任と著作権を日本熱帯医学会学生会が所有します。その内容のすべて、あるいは一部を、無断で複製・転載すること、インターネット等で掲載することは、理由の如何を問わず権利の侵害となります。あらかじめご了承ください。

勉強会概要

はじめに

第5タームでは肝炎ウイルスをテーマに取り上げた。2020年にC型肝炎ウイルスの発見がノーベル賞を受賞し、その発見や治療が脚光を浴びた。肝炎ウイルスは熱帯地域においても喫緊の課題となっているが、B型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスは未だに日本でも蔓延しており、その予防・治療は国内でも課題となっている。また、日本では薬害肝炎が発症していることから、行政上も大きな問題となっている。本勉強会では、「基礎研究」「臨床」「行政」の3つの観点から、肝炎ウイルスに関する理解を深めた。本勉強会を通して、熱帯医学のみならず、現在の日本の医療問題まで理解することを目指した。

到達目標

ウイルス学に関する基礎研究や治療法の開発、肝炎の臨床病態や肝炎ウイルスの蔓延状況及び予防法、国内外の公衆衛生的問題に関しての理解を深める。また、基礎研究、診療、行政の各分野の第一線で活躍しておられる先生方にご講演いただき、実際のフィールドにおける課題学び、その知識を将来的に役立てられるようにする。

講演者一覧

基礎研究分野講演者

大阪大学感染症総合研究拠点拠点長/大阪大学微生物研究所特任教授 松浦善治先生

臨床分野講演者

金沢大学先進予防医学研究センター 准教授

金沢大学附属病院消化器内科

金沢大学WHO慢性肝炎肝癌協力センター 山下竜也先生

行政分野講演者

一般社団法人新時代戦略研究所(INES)理事長 梅田一郎先生

日程一覽

5/14 20:00~21:00 基礎研究分野学生勉強会

5/20 19:00~20:30 松浦善治先生講演会

5/26 20:00~21:00 臨床分野学生勉強会

6/1 19:00~20:30 山下竜也先生講演会

6/17 20:00~21:00 行政分野学生勉強会

6/30 19:00~20:30 梅田一郎先生講演会

勉強会報告

「基礎研究」グループサマリー

基礎研究グループでは、急性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌といった様々な形で発症する肝炎ウイルス感染症について、疾病に関与する肝炎ウイルスの特徴を学ぶことを目的として勉強会を行った。「肝炎ウイルスとウイルスベクター」と題して日本のウイルス学研究を牽引されてきた大阪大学微生物病研究所の松浦善治先生をお招きし、ウイルス横断的な講義をしていただいた。

2021年5月14日(金)に行われたWeek1の学生勉強会では、肝炎ウイルスの生活環、分子レベルの感染機序、過去から現在までの治療薬に加え、2020年のノーベル医学・生理学賞を受賞したC型肝炎発見の概要について学んだ。5種の肝炎ウイルスは”〇型肝炎ウイルス”と箇条書きされるように名前を付けられているが、それぞれにはそれぞれの分子機構があり、感染様式があり、標的とするレセプターがあるため、実際は1つ1つが異なるウイルスであること。ウイルスや臨床状態によって治療戦略が異なること。C型肝炎ウイルス発見までの道のりから研究者たちの輸血後肝炎の原因究明に対する思い。それらを学んだ90分となった。

2021年5月20日(木)に行われたWeek2講演会の演者である松浦善治先生は、2020年にノーベル医学生理学賞を受賞したC型肝炎発見に関する研究に携われ、現在もウイルス研究の第一線で活躍されている方である。

ご講演では、バキュロウイルスを用いた研究、C型肝炎ウイルスについての研究、さらにはCOVID-19の研究についてまでお話しいただいた。バキュロウイルスについてのお話では、バキュロウイルスをベクターとして用い、導入する遺伝子の選択によっては遺伝子治療に用いることができるという、ウイルスを有効に活用する方法論の解説を伺った。C型肝炎ウイルスについてのお話では、マイクロRNAを用いた治療法およびそれに到達するまでの過程を学ぶことが出来た。COVID-19についてのお話ではその感染様式などの基礎的な内容からウイルスの変異株について、ワクチン摂取後の予防効果など、最新の情報についてまで説明いただき、新たな学びとなった。

ウイルスについて幅広い内容を丁寧に解説いただき大変勉強になったことはもちろんであるが、質問に対しても非常に丁寧に対応をくださった先生のお人柄もまた大変印象的であった。今回のご講演では肝炎ウイルスに対する知識を深めることに加え、将来熱帯医学の研究を志す学生にとっては特に刺激を受ける内容であった。

文責: 金理志・磯邊綾菜・竹田早希・福田佳那子

「臨床」グループサマリー

Week 3&4では、前回の基礎研究の勉強に並び、ウイルス性肝炎の臨床的な側面について勉強を行った。「Globalなウイルス性肝炎の取り組みと日本の位置付け」という題で、B型、C型のウイルス性肝炎の臨床経過、治療、国内での対策、WHO協力センターでの肝炎対策について山下竜也先生をお招きし、ご自身の経験をもとにご講演いただいた。

2021年5月26日(水)に行われたWeek 3の学生勉強会では、ウイルス性肝炎の臨床経過と診断、地理的特徴と疫学、予防と対策を取り上げた。week 1&2で学んだ五つのウイルスの性質について復習をしつつ、上記のことについて五種五様の知識を整理した。また、次週の講演会に向けてGlobalな肝炎対策を理解するための基礎知識を身につけた。

2021年6月1日(火)に行われたWeek4講演会の演者である山下竜也先生は、金沢大学消化器内科で、臨床医としてウイルス性肝炎の日常診療に当たっておられるとともに、同大学WHO慢性肝炎協力センターの活動の一環としてWHO本部にて肝炎ガイドラインの策定にも携わっておられる。

ご講演では、B型肝炎及びC型肝炎の臨床・治療・日本の行政の取り組みなどについて最新の情報をお話しいただいた。B型肝炎では、臨床経過とHBVキャリアの推移、ワクチン、IFNと核酸アナログについてお話しいただいた。C型肝炎に関しては、臨床経過と感染者で高齢者が多いこと、インターフェロンがかつては使われていたが今では経口薬が用いられていること、肝臓専門医が治療を考えていく仕組みになっていることを学んだ。また、感染者の拾い上げなどについて教えて頂き、日本の肝炎対策の実態も学ぶことができた。市町村・保健所・職域・妊婦の受検や、専門機関への紹介、電子カルテを活用した病院内での拾い上げ、手厚い費用のサポートがあることを知った。患者が高齢、無症状による治療の拒否が拾い上げの問題点とあった。さらに、WHOとは何か、WHO協力センターの役割と取り組みにはどのようなものがあるのかをご自身の経験を交えながらとお話くださり、大変興味深い内容のご講演であった。

ご講演の中で、特に日本における肝炎診療のお話は、これから国家試験を経て医師となる学生にとって重要なエッセンスが詰まった内容であった。また、WHOでの肝炎対策のお話は、「日々触れる情報をどう理解するか」を再考する必要性についての示唆に富んだものであり、これから国際保健の分野で活躍することを目指す学生達にとって大変貴重なものとなった。

文責：竹田早希・磯邊綾菜・城戸初音

「行政」グループサマリー

「行政」グループでは、日本の薬害肝炎に関する知識やそれに対する日本の対策や現状を知ると共に、世界での肝炎の問題や撲滅に向けた対策を学ぶことを目的として行われた。

2021年6月17日(木)に行われたWeek 5の学生勉強会では、肝炎ウイルスの薬害問題、日本の肝炎ウイルス対策、WHOにおける肝炎対策を理解するための基礎知識を身につけた。特に薬害肝炎やそれに対する対策に関しては、将来医療者となる者にとって知っておくべき内容であり、実際薬害肝炎で苦しんでおられる患者さんと出会った際にどのようなアプローチができるのか、ということを考える良い機会となった。世界における肝炎対策では、WHOが具体的にどのような目標を掲げ、それに対してどのような対策が取られているのかを学ぶことができた。

2021年6月30日(水)に行われたWeek 6講演会の演者である梅田一郎先生は一般社団法人新時代戦略研究所(INES)の理事長をしていらっしゃる。INESは、経済・金融・政治外交等幅広い分野で国内外の喫緊の課題について政策提言すること目指し設立された団体であり、その中の「肝炎撲滅プロジェクト」として、薬害肝炎や日本の肝炎対策に関して積極的な政策提言を行っておられる。ご講演では、まず最初に世界肝炎デーや日本の肝炎対策や問題に関して説明して下さった。その後、INES「肝炎撲滅プロジェクト」の提言として、日本においても「Elimination」という言葉の記載をすべきということや、フォローアップ事業の対象者の拡大、医療機関内の非専門医から専門医へ確実に繋ぐ院内連携の更なる推進、初回精密検査実施の助成に関わる申請手続きの簡素化といった内容を丁寧にお話して下さった。さらには、米国バイデン政権の新たな取り組みである肝炎対策に関しても教えていただいた。

ご講演を通して、日本でも未だに薬害肝炎が問題となっていること、そして薬害肝炎に対する現在の日本の対策・対応がどのようなもので、今後さらにどういった対策が必要になってくるのか、ということを知り考えさせていただき貴重な機会になった。

文責：榊華野子・植田まさみ・塚原万葵

謝辞

報告書の締めくくりにあたり、お忙しい中善意でのご協力を賜りました松浦善治先生、山下竜也先生、梅田一郎先生に心から御礼申し上げます。また、平素より学生団体に対してご支援くださる山城哲先生をはじめとする日本熱帯医学会の先生方に感謝いたします。

